

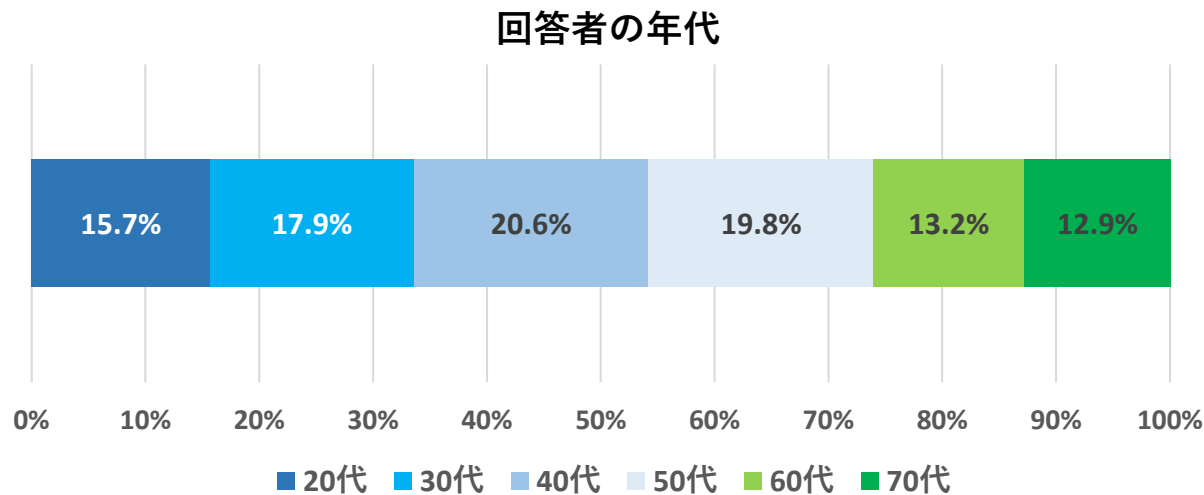
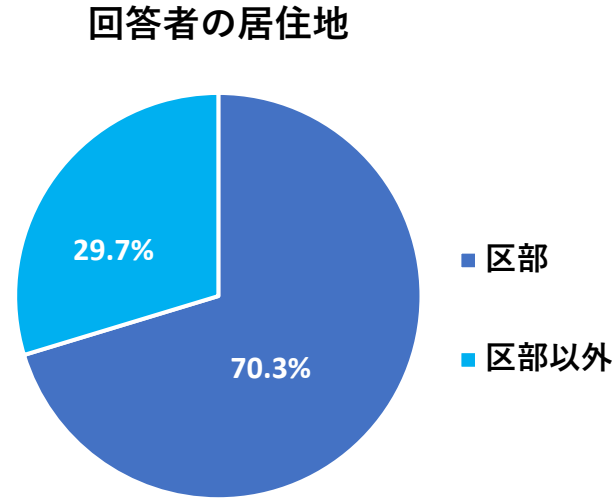
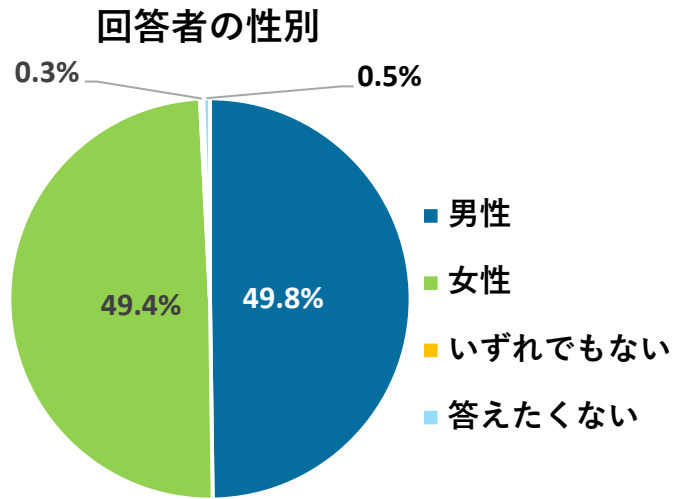
東京iCDCリスクコミュニケーションチームによる 都民1万人アンケート調査結果（2024年2月実施）

2024. 3. 22

- **調査方法**：インターネット調査
- **調査対象**：東京都に住所を有する20代から70代までの者
- **サンプリング方法およびサンプル数**：
 - ・ 性別・年齢構成・居住地を東京都の人口比率に合わせた割当抽出
 - ・ **10,531 サンプル**
- **調査期間**：2024年2月9日（金）～2月19日（月）……11日間
- **調査項目**：
 - 新型コロナの経験・後遺症
 - 新型コロナに関する気持ち
 - 感染症に関する情報源
 - 新型コロナを振り返って特に困ったこと・つらかったこと
 - 現在の感染症対策・今後も定着してほしいこと
 - 新たなパンデミックへの考え・備え など

有効回収票についての基本属性

有効回収票 n = 10,531

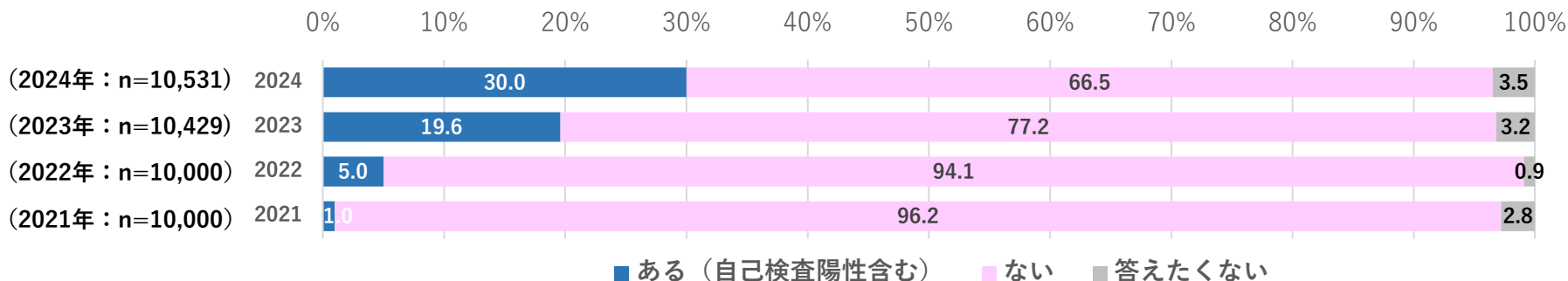


回答者の職業 (単位 %)

管理的職業従事者	8.5
専門的・技術的職業従事者	13.6
事務従事者	18.9
販売従事者	3.8
サービス職業従事者	11.1
保安職業従事者	0.6
農林漁業従事者	0.1
生産工程従事者	1.8
輸送・機械運転従事者	0.7
建設・採掘従事者	1.0
運搬・清掃・包装等従事者	1.9
分類不能の職業	3.5
専業主婦・主夫	13.3
学生	2.1
無職	13.7
答えたくない	5.4
全体	100.0

※本調査結果の構成比は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計をしても必ずしも100とはならない。

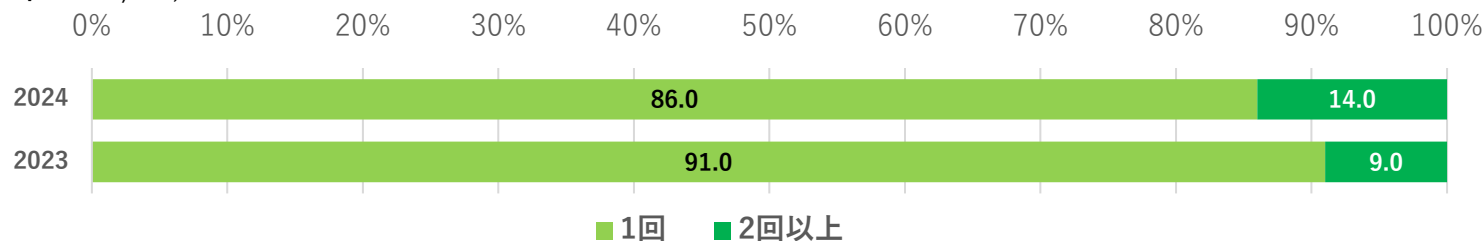
あなたは、新型コロナ陽性と判定されたことがありますか。あてはまるものをひとつ選んで下さい。



◆ 回答した人のうち、陽性との判定を経験した人は**30%** (n=3,158)。
 (回答者に占める割合は、2021年2月の調査時点から年々増加)

(新型コロナ陽性の判定経験がある方に) コロナ陽性になった回数は何回ですか。

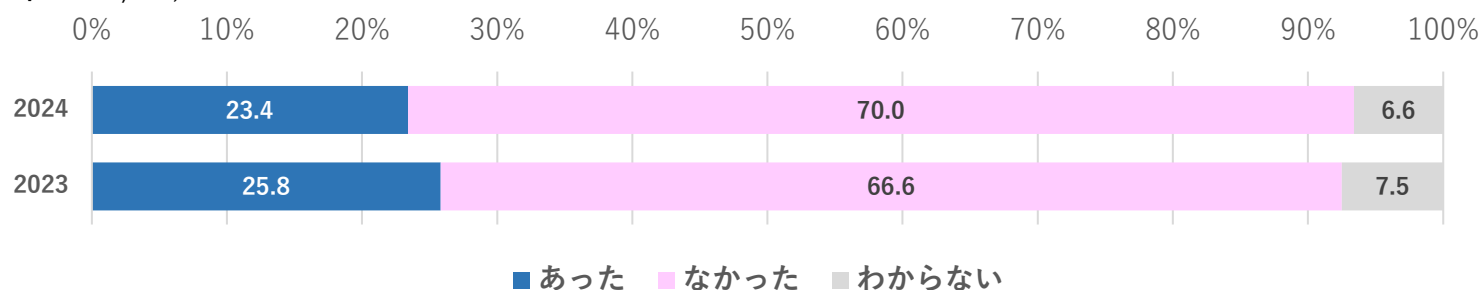
(2024年：n=3,158、2023年：n=2,040)



◆ 陽性になった回数が「2回以上」の回答割合は**14%**。
 (昨年2月調査と比較すると5%増加)

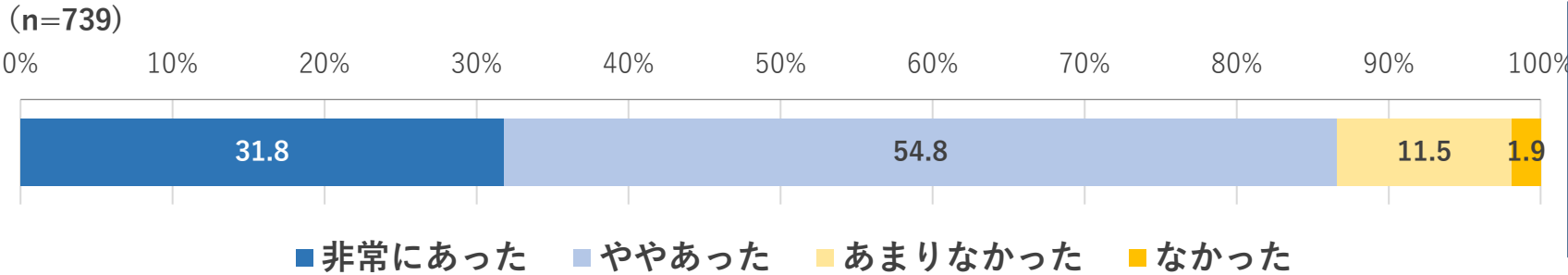
(新型コロナ陽性の判定経験がある方に) 新型コロナに感染してから2カ月以上の期間、後遺症を疑う症状がありましたか。

(2024年：n=3,158、2023年：n=2,040)



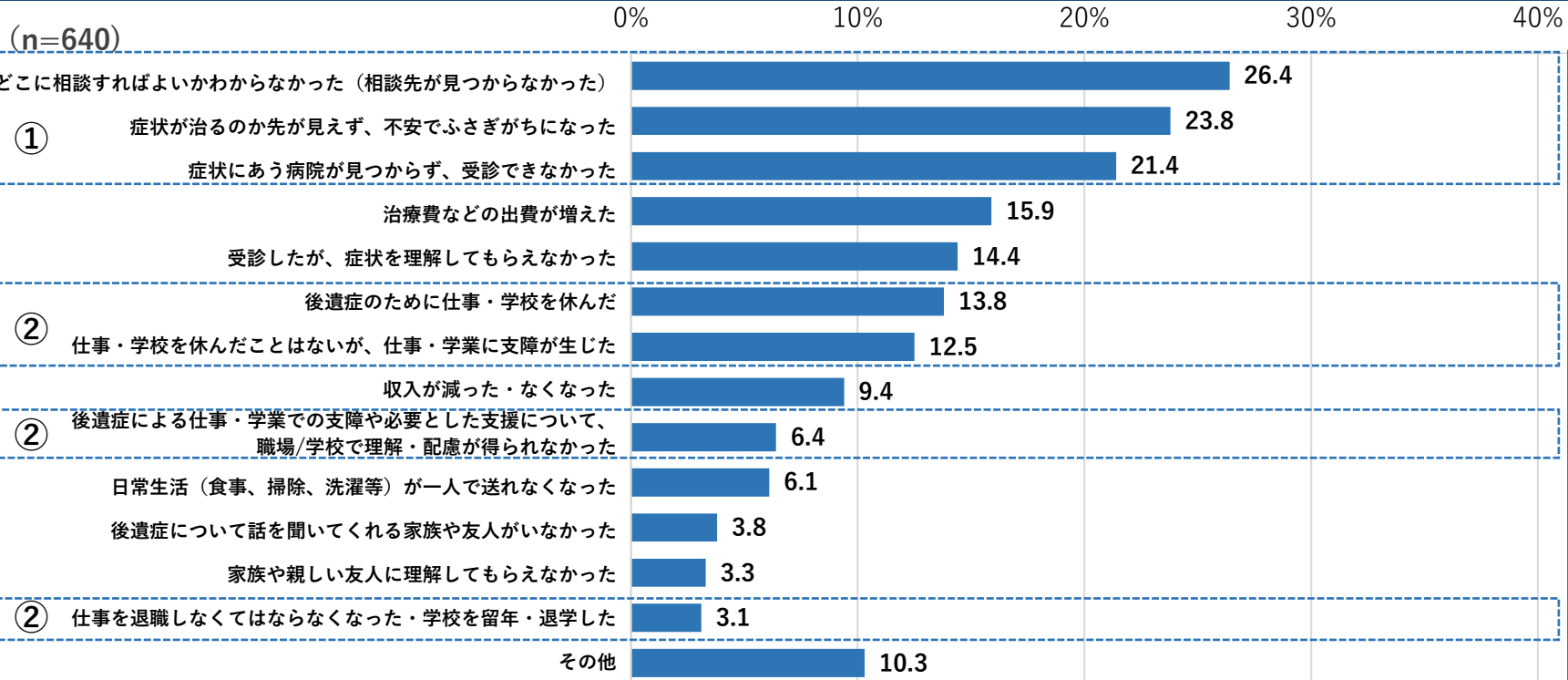
◆ 「感染してから2カ月以上の期間、後遺症を疑う症状があった」の回答割合は**約25%**。
 (昨年2月調査と同程度)

後遺症の症状は日常生活にどの程度支障がありましたか。



◆ 後遺症を疑う症状があったと回答した人のうち、後遺症による日常生活への支障が「非常に/ややあった」の回答割合は約85%。

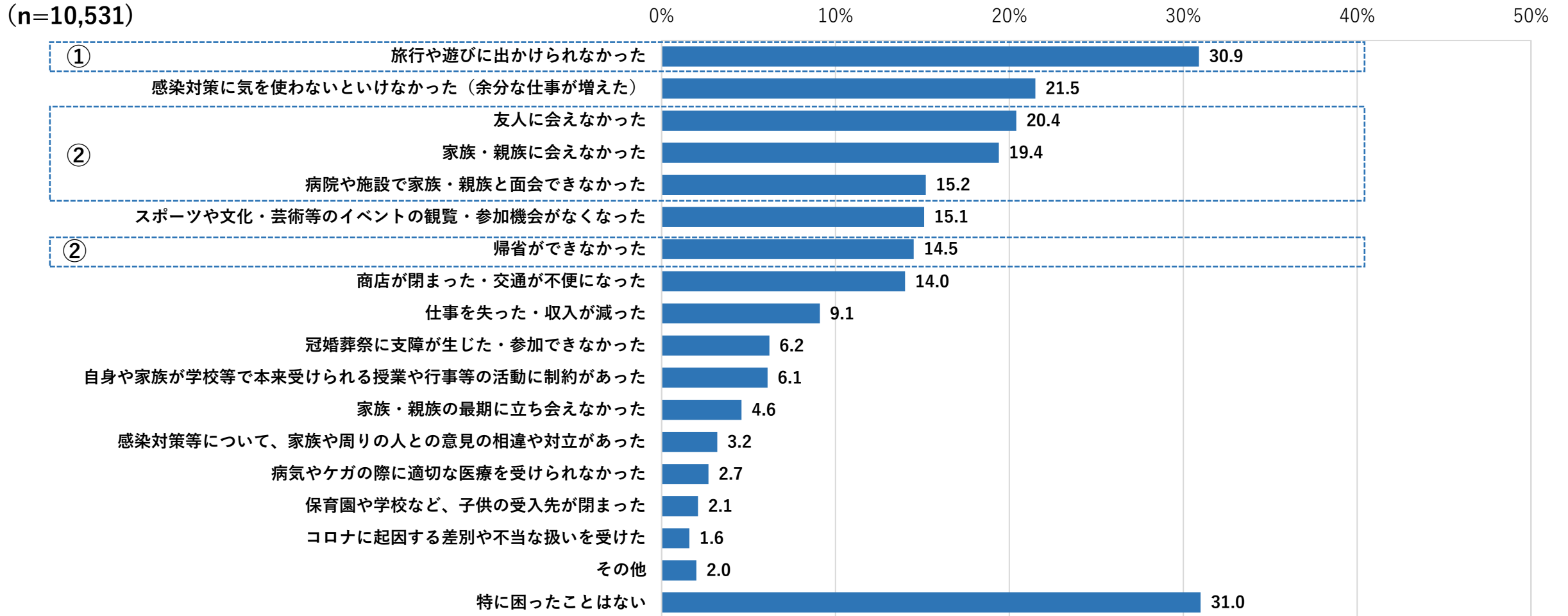
(後遺症の症状は日常生活に支障が非常に/ややあった方に) 後遺症となって、日常生活において、どのような困りごとや影響がありましたか。



① 「どのに相談すればよいかわからなかった」(26.4%)、「症状が治るのか先が見えず、不安でふさがちになった」(23.8%)、「症状にあう病院が見つからず、受診できなかった」(21.4%)の順に回答割合が高い。

② 仕事・学業への影響については、「後遺症のために仕事・学校を休んだ」(13.8%)、「仕事・学校を休んだことはないが、仕事・学業に支障が生じた」(12.5%)など。

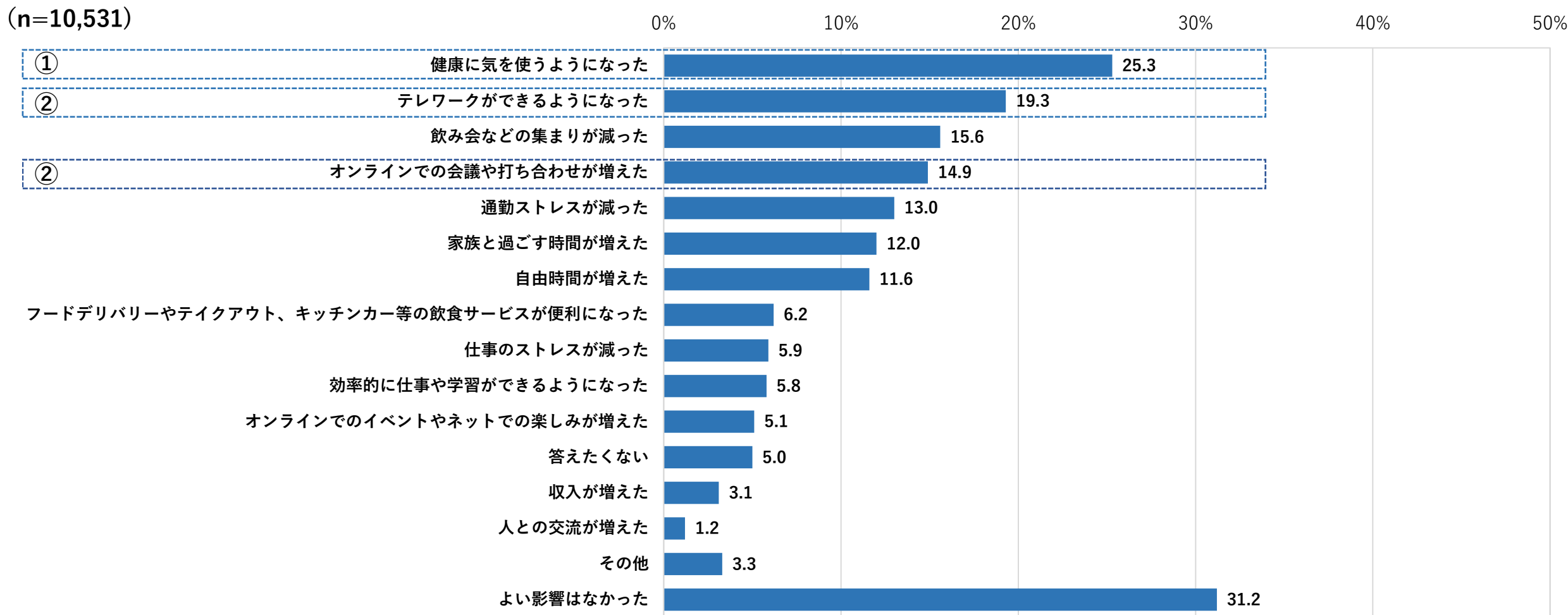
新型コロナの流行を振り返って、あなたが特に困ったこと、つらかったことは何ですか。 あてはまるものをすべて選んで下さい。



新型コロナの流行を振り返って、特に困ったこと、つらかったこととしては、

- ① 「旅行や遊びに出かけられなかった」 (30.9%) の回答割合が最も高い。
- ② 「友人に会えなかった」 (20.4%)、「家族・親族に会えなかった」 (19.4%)、「病院や施設で家族・親族と面会できなかった」 (15.2%)、「帰省ができなかった」 (14.5%) と家族・親族・友人といった人に会えなかったことを挙げる人も多い。

新型コロナが流行したこの3年間で、あなたにとってよい影響がありましたか。 あてはまるものをすべて選んで下さい。

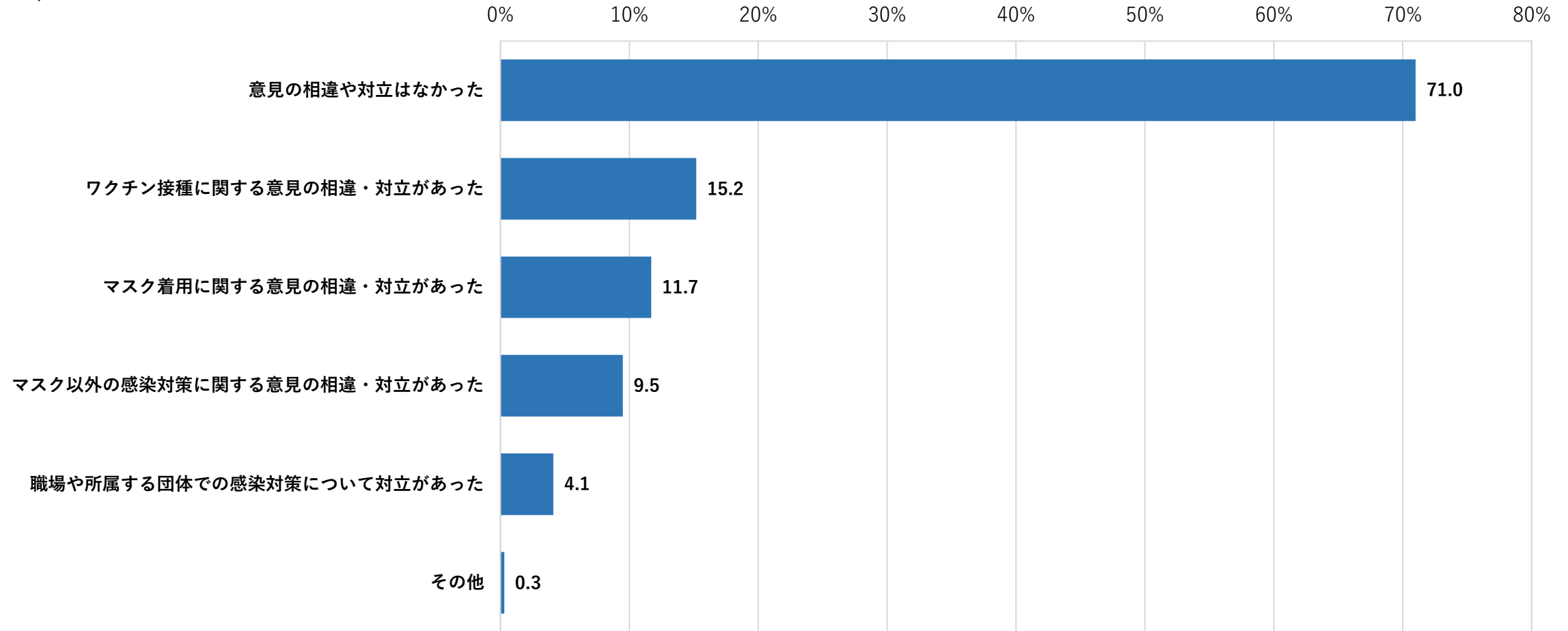


新型コロナが流行してからこれまでのよい影響としては、

- ① 「健康に気を使うようになった」 (25.3%) の回答割合が最も高い。
- ② 「テレワークができるようになった」 (19.3%)、「オンラインでの会議や打ち合わせが増えた」 (14.9%) など、オンラインの活用・普及による働き方の変化に関連した回答割合も高い。

あなたの家族や周りの人の中で、新型コロナを原因とした意見の相違や対立がありましたか。 あてはまるものをすべて選んで下さい。

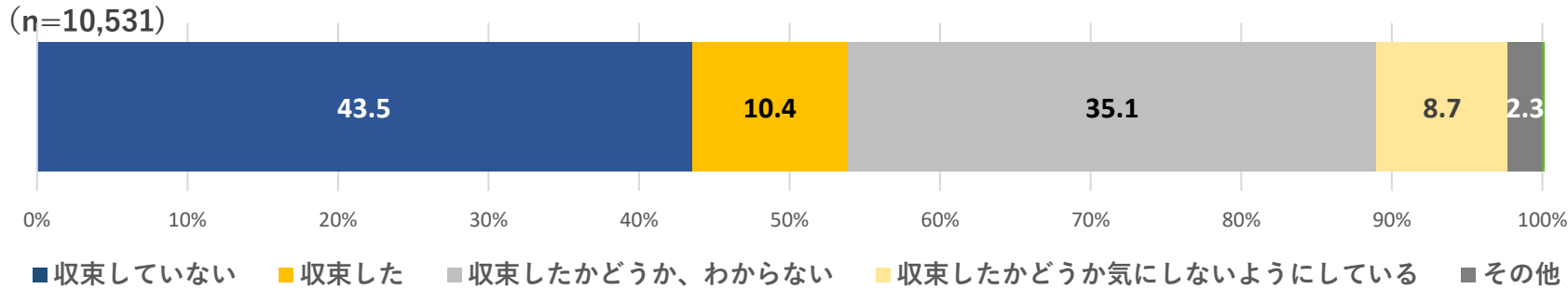
(n=10,531)



新型コロナを原因とした意見の相違や対立については、

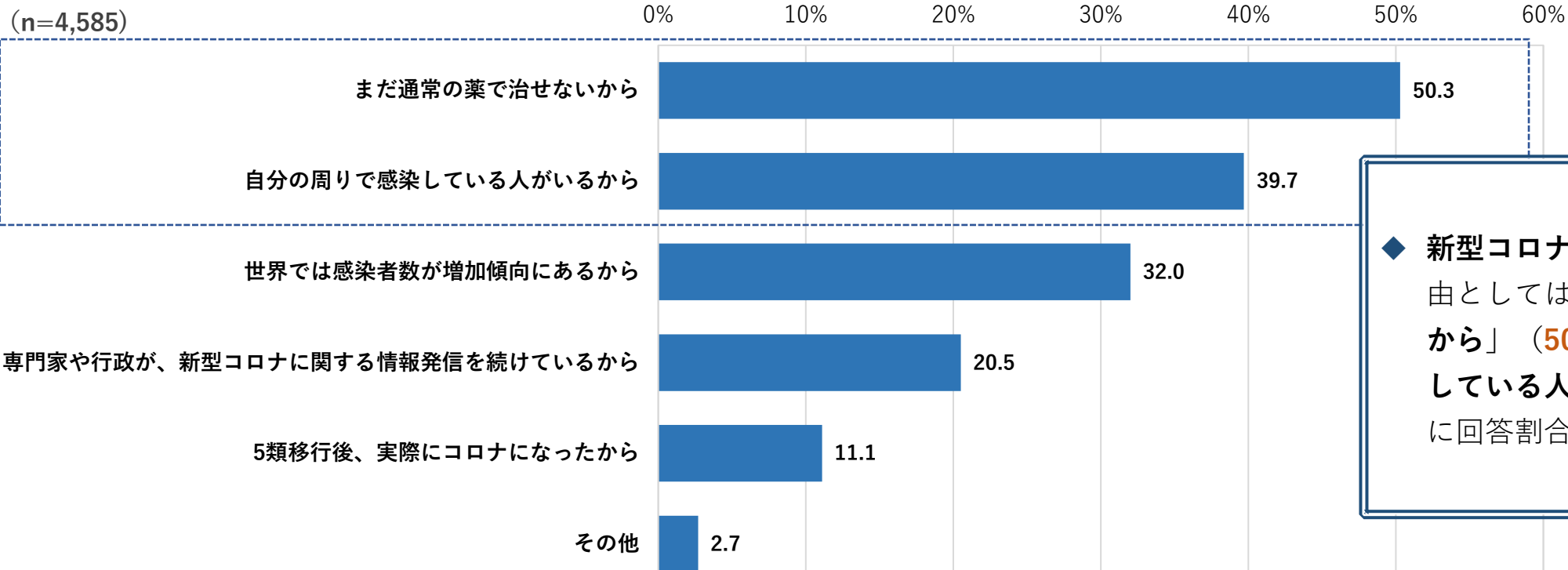
- ◆ 「意見の相違や対立はなかった」 (71.0%) の回答割合が最も高い。
- ◆ 相違・対立の内容としては、「ワクチン接種に関する意見」 (15.2%)、「マスク着用に関する意見」 (11.7%)。

新型コロナの収束に関して、あなたの気持ちにあてはまるものをひとつ選んで下さい。



- ◆ 「収束していない」の回答割合は約**45%**、「収束した」の回答割合は約**10%**。
- ◆ 「収束したかどうか、わからない」の回答割合は約**35%**。

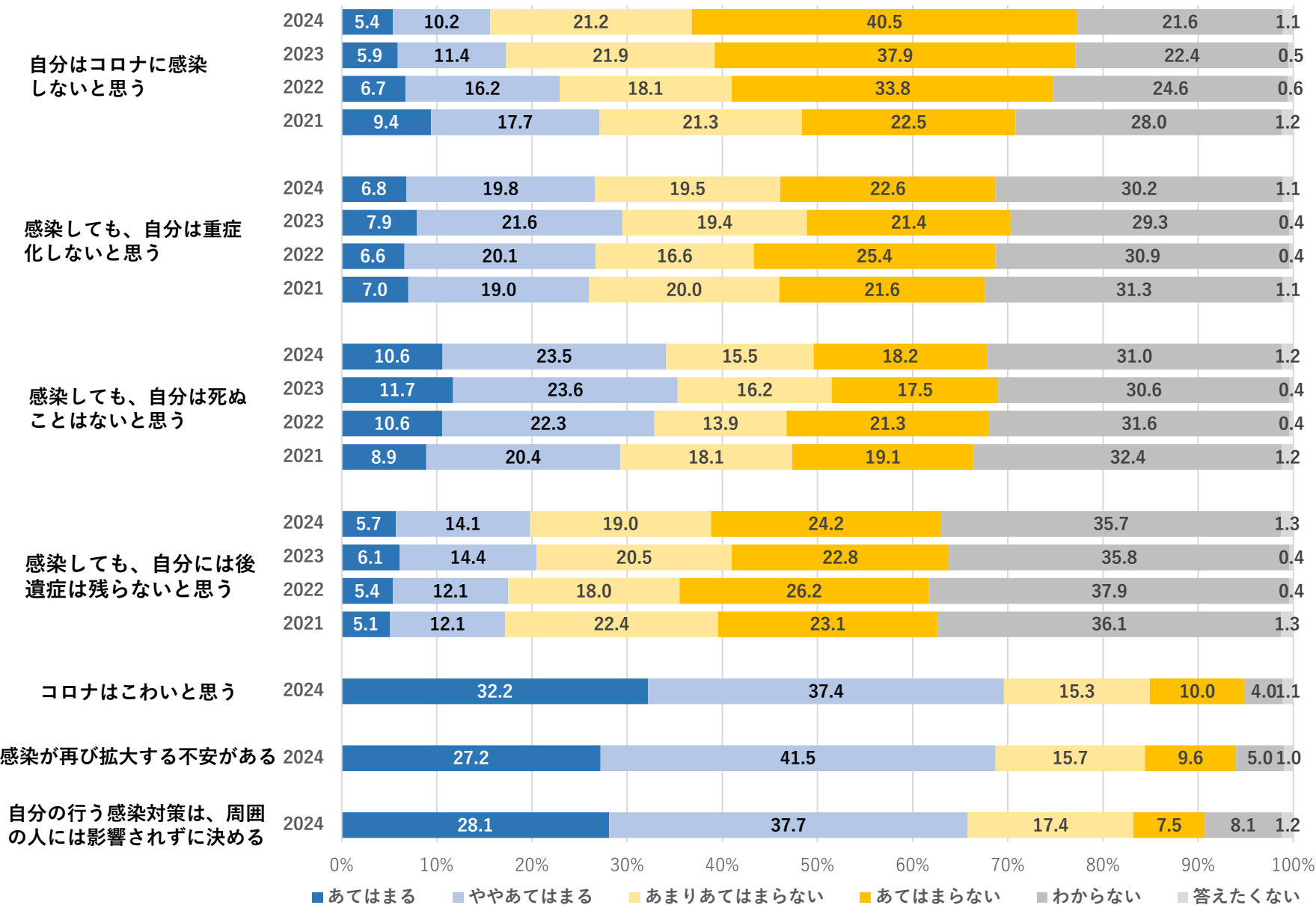
(前問で「収束していない」と答えた方に) その理由として、あてはまるものをすべて選んで下さい。



- ◆ 新型コロナが収束していないと考える理由としては、「まだ通常の薬で治せないから」(50.3%)、「自分の周りで感染している人がいるから」(39.7%)の順に回答割合が高い。

新型コロナに関して、あなたの気持ちにあてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。

(2024年：n=10,531)(2023年：n=10,429)(2022年、2021年：n=10,000)



自分への感染や重症化などに関する意識について、**2021年から2024年までの経年変化を捉えたところ、意識が顕著に低下していくといった傾向は見られない。**

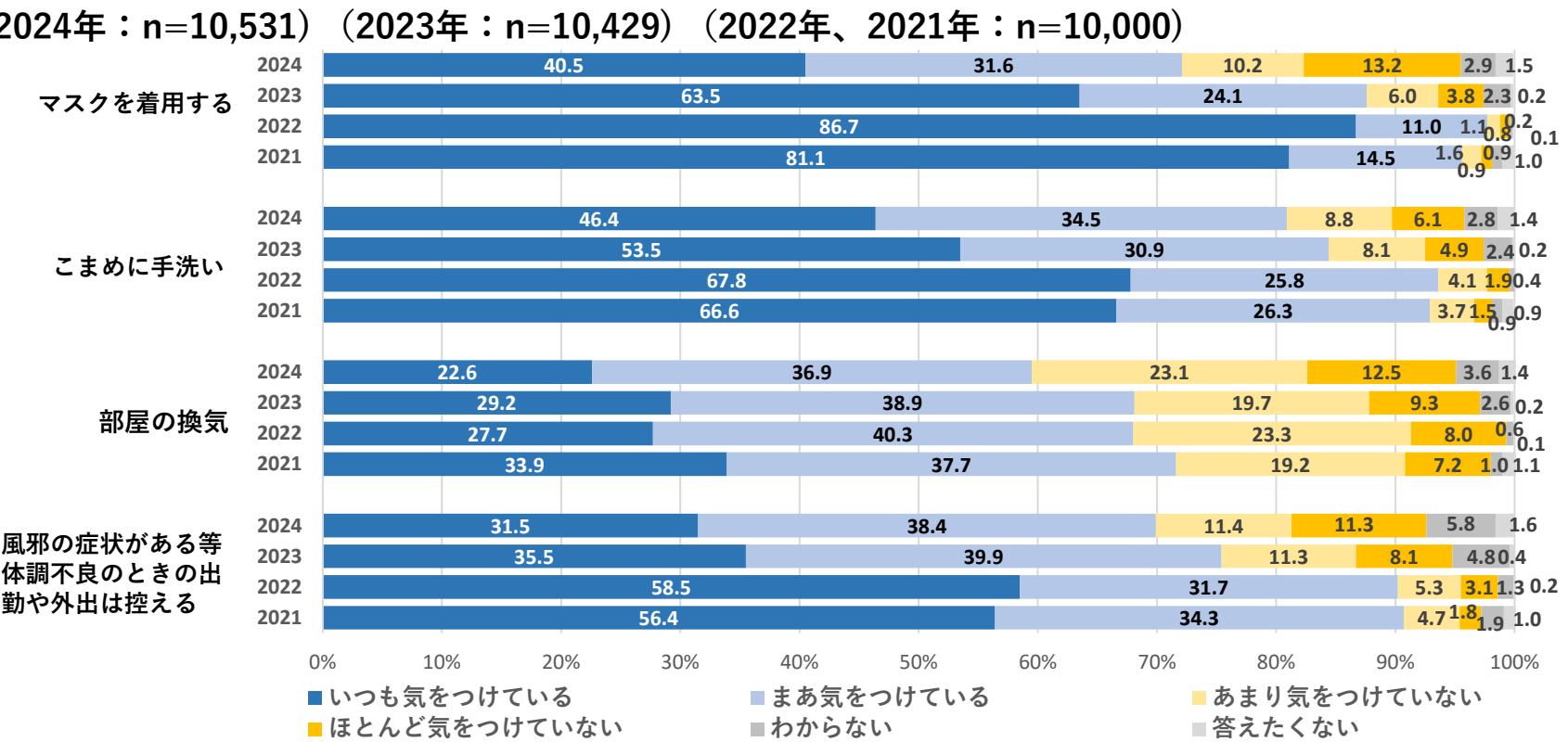
◆ 「自分はコロナに感染しないと思う」について、「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合は**約15%**。**2021年2月の調査結果から年を追うごとに割合が低下。**

◆ 「感染しても、自分は重症化しないと思う」、「感染しても、自分は死ぬことはないと思う」、「感染しても、自分には後遺症は残らないと思う」について、「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合は、**2021年2月の調査結果から大きな変化はない。**

◆ 「コロナは怖いと思う」、「感染が再び拡大する不安がある」について、「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合は**約70%**。

◆ 「自分の行う感染対策は、周囲の人には影響されずに決める」の回答割合は**約65%**。

新型コロナ等の感染症対策について、現在（2月時点）のあなたにあてはまるものをひとつずつ選んで下さい。

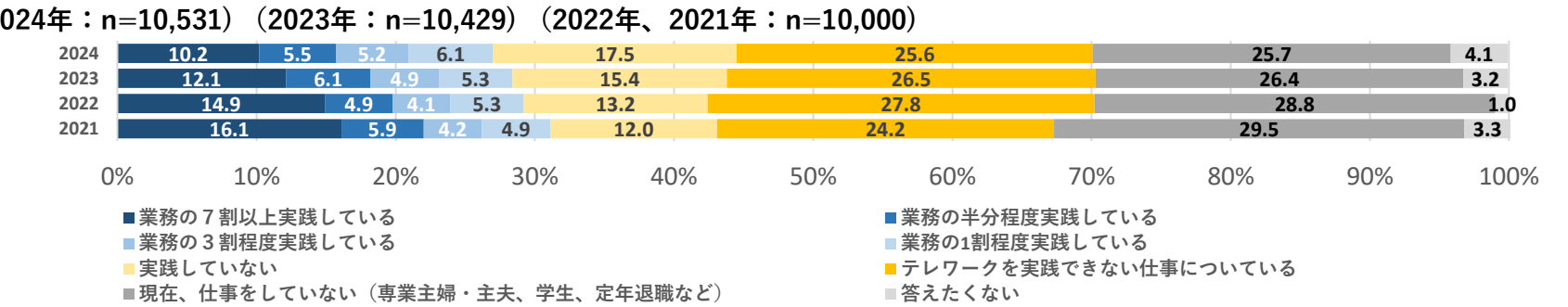


※2021~2023年調査では、「新型コロナの対策」に特化して尋ねているが、2024年調査では、「新型コロナを含む感染症全般」について尋ねた。
 ※2021年、2022年調査では、選択肢は「こまめに手を洗うか、消毒液を使用する」を使用。

2021年から2024年の経年変化を捉えたところ、実施割合は年々低下しているものの2024年2月時点でも、**基本的感染対策は約6割以上の方が実施している。**

- ◆ 「マスクを着用する」については、「いつも/まあ気をつけている」の回答割合は**約70%**。
- ◆ 「こまめに手洗い」については、「いつも/まあ気をつけている」の回答割合は**約80%**。
- ◆ 「部屋の換気」については、「いつも/まあ気をつけている」の回答割合は**約60%**。
- ◆ 「体調不良のときの出勤や外出は控える」については、「いつも/まあ気をつけている」の回答割合は**約70%**。

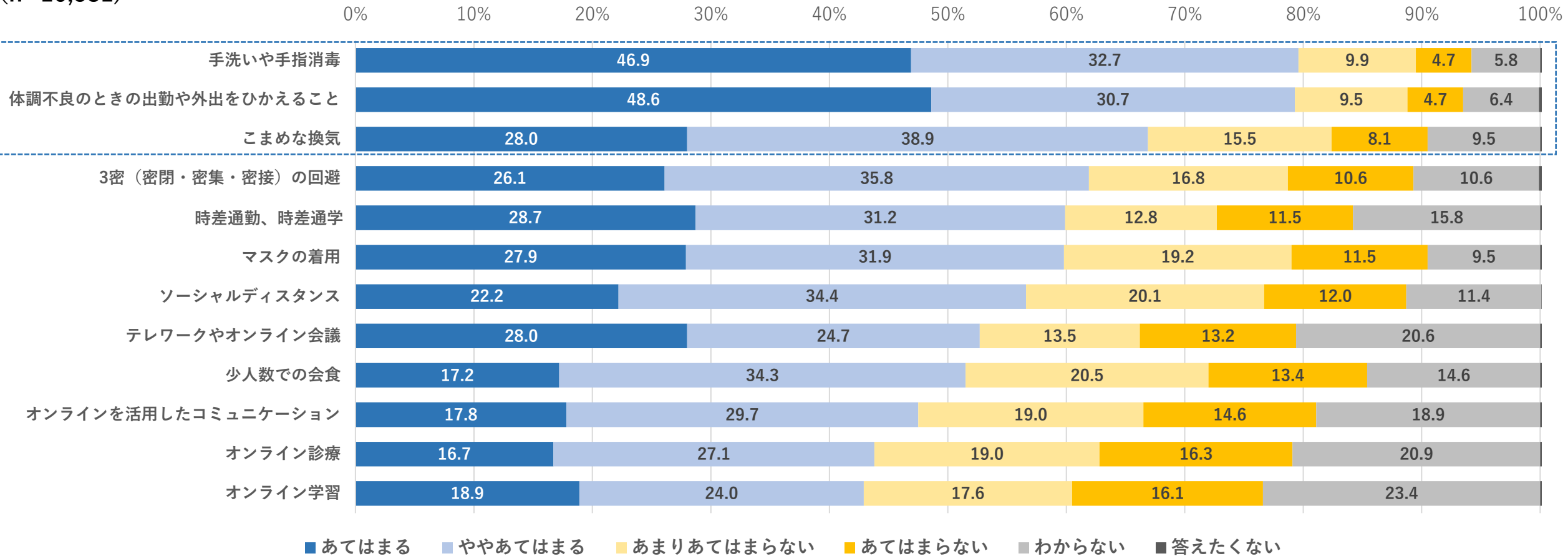
この1ヶ月、あなたはテレワークをどれくらい実践しましたか。



◆ **テレワークを実践している人は約30%**であり、**昨年2月調査結果と同程度。**
 （「テレワークを実践できない仕事についている」、「現在、仕事をしていない」の回答を除いた場合の割合は**約60%**）

あなたは、以下の項目について、新型コロナウイルスの流行に関わらず今後も定着してほしいと思いますか。
 あてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。

(n=10,531)

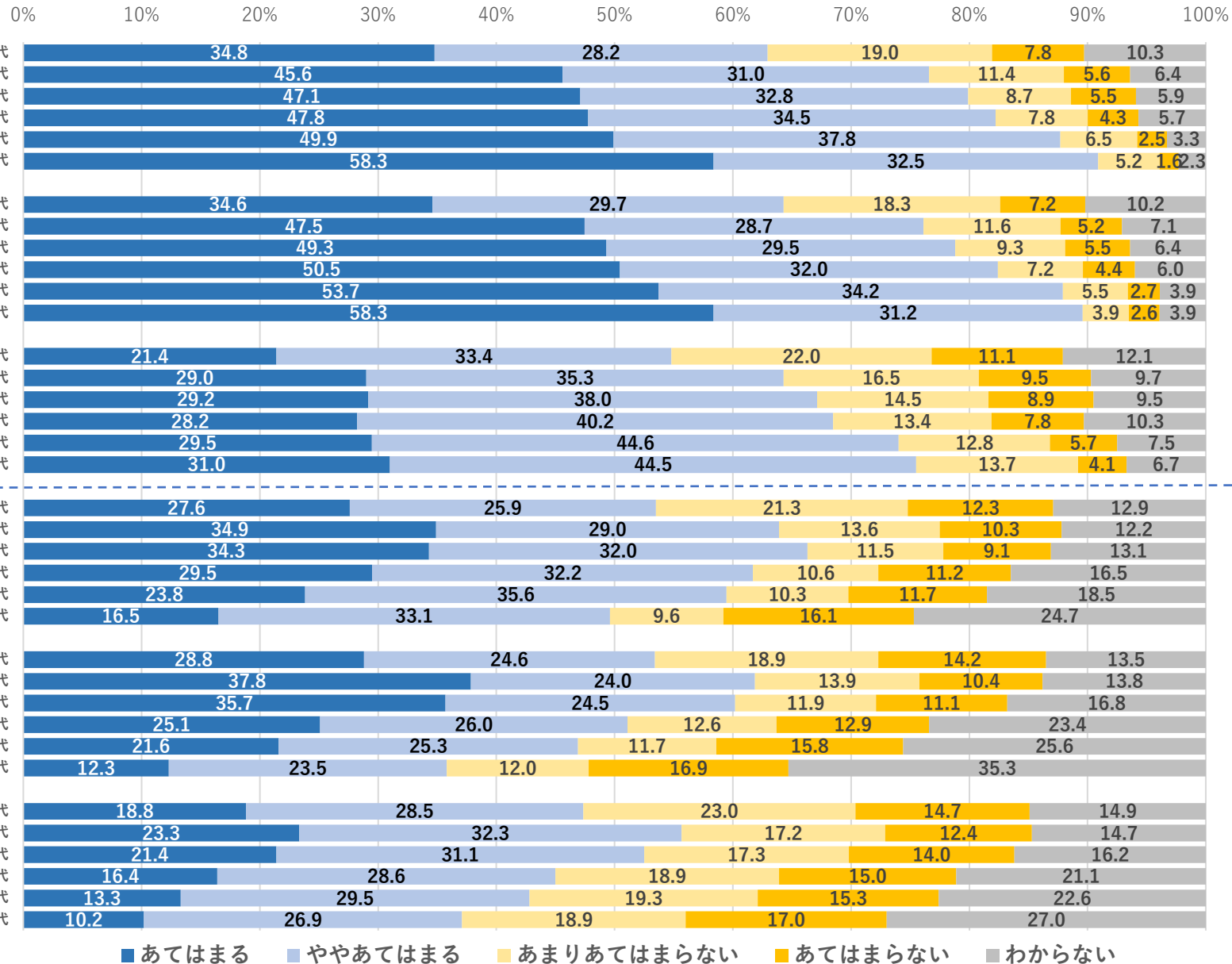


新型コロナウイルスの流行に関わらず今後も定着してほしいこととしては、

- ◆ 「手洗いや手指消毒」、「体調不良のときの出勤や外出をひかえること」に「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合は約80%、「こまめな換気」は約65%。

あなたは、以下の項目について、新型コロナウイルスの流行に関わらず今後も定着してほしいと思いますか。
 あてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。（年代別）

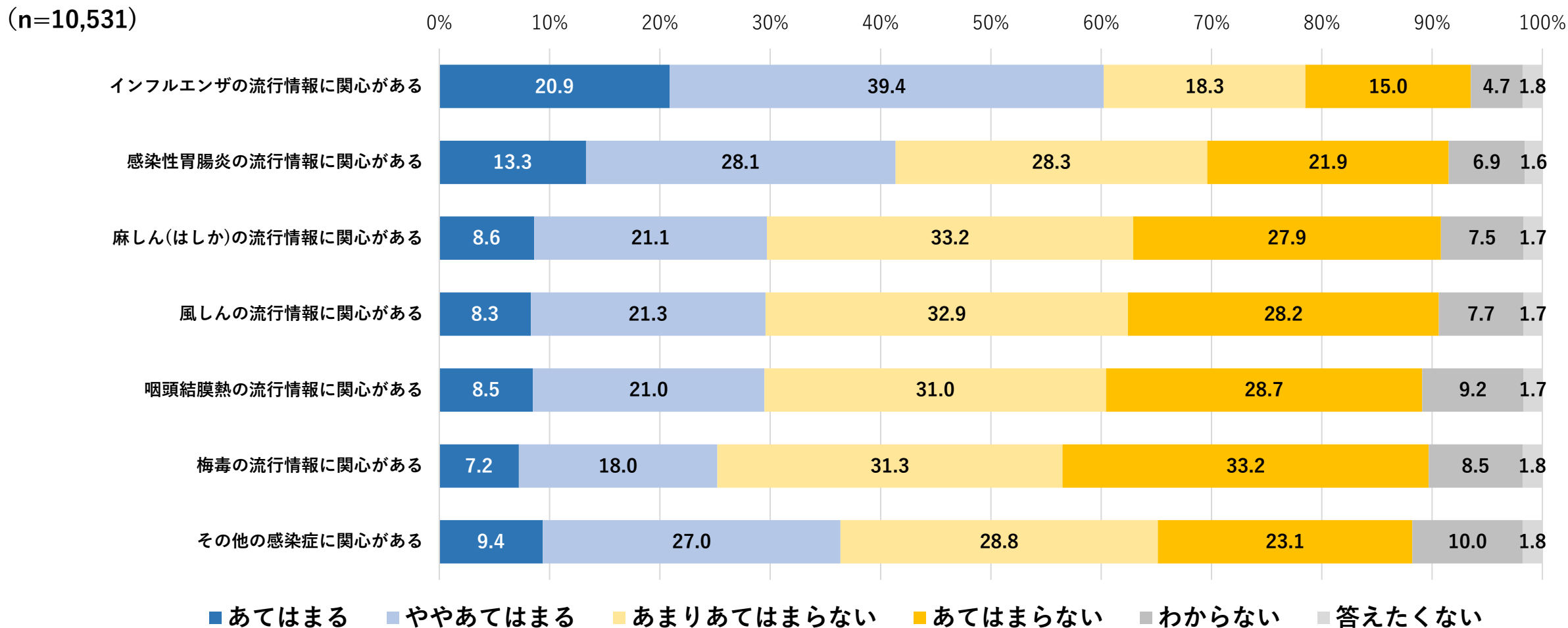
(20代：n=1,651 30代：n=1,886 40代：n=2,168 50代：n=2,084 60代：n=1,388 70代：n=1,354)



◆ 「手洗いや手指消毒」、
 「こまめな換気」等の基本的な感染対策では、
 「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合は年代が高くなるほど高い。

◆ 「時差通勤、時差通学」やオンライン関連の選択肢では、「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合は30代・40代において高く、年代が高くなるほど低い。

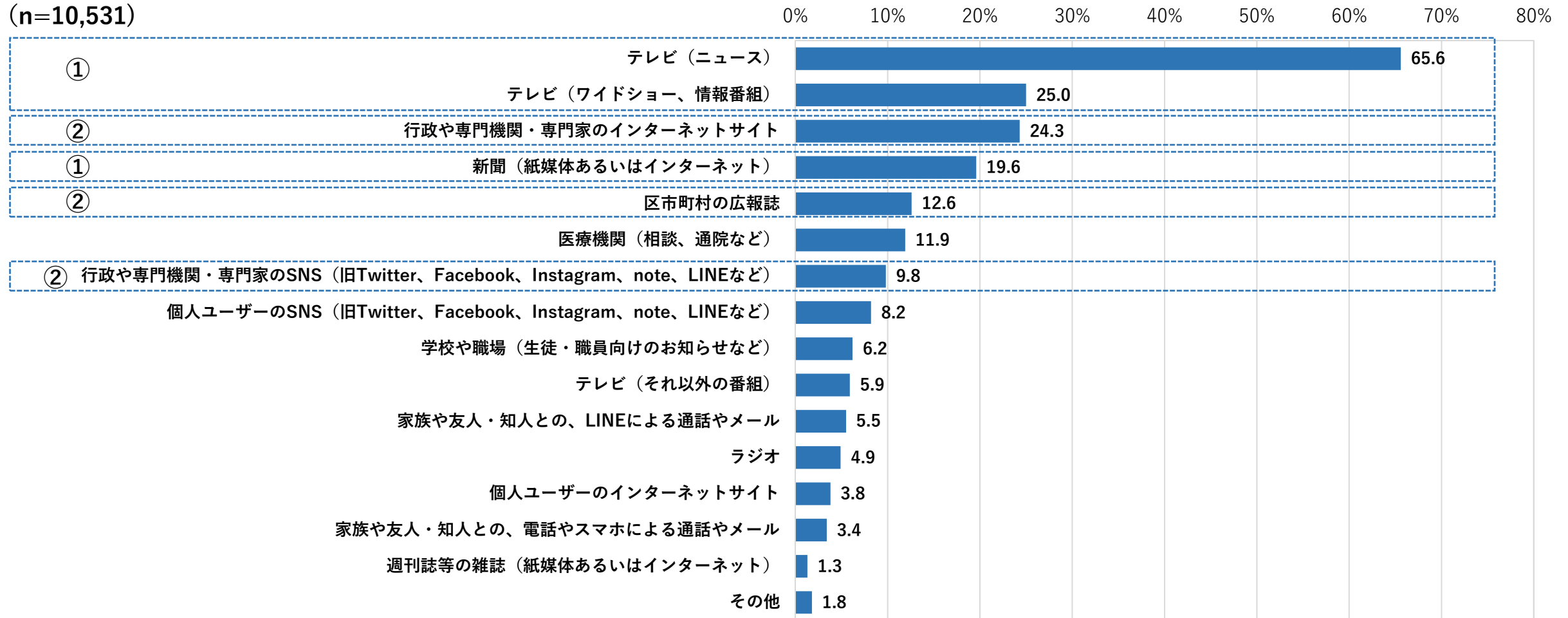
新型コロナ以外の感染症に関して、あなたの気持ちや行動にあてはまるものをそれぞれひとつ選んで下さい。



新型コロナの大流行を経験後の2024年2月時点では、インフルエンザ等の感染症に対して一定の関心が見られる。

- ◆ 「インフルエンザの流行情報に関心がある」の回答割合は約60%。
- ◆ インフルエンザ以外の感染症について、「流行情報に関心がある」の回答割合は約25~40%。

新型コロナやその他の感染症に関して情報を得ようとするとき、どの情報源を利用しますか。 よく利用するものを3つまで選んで下さい。

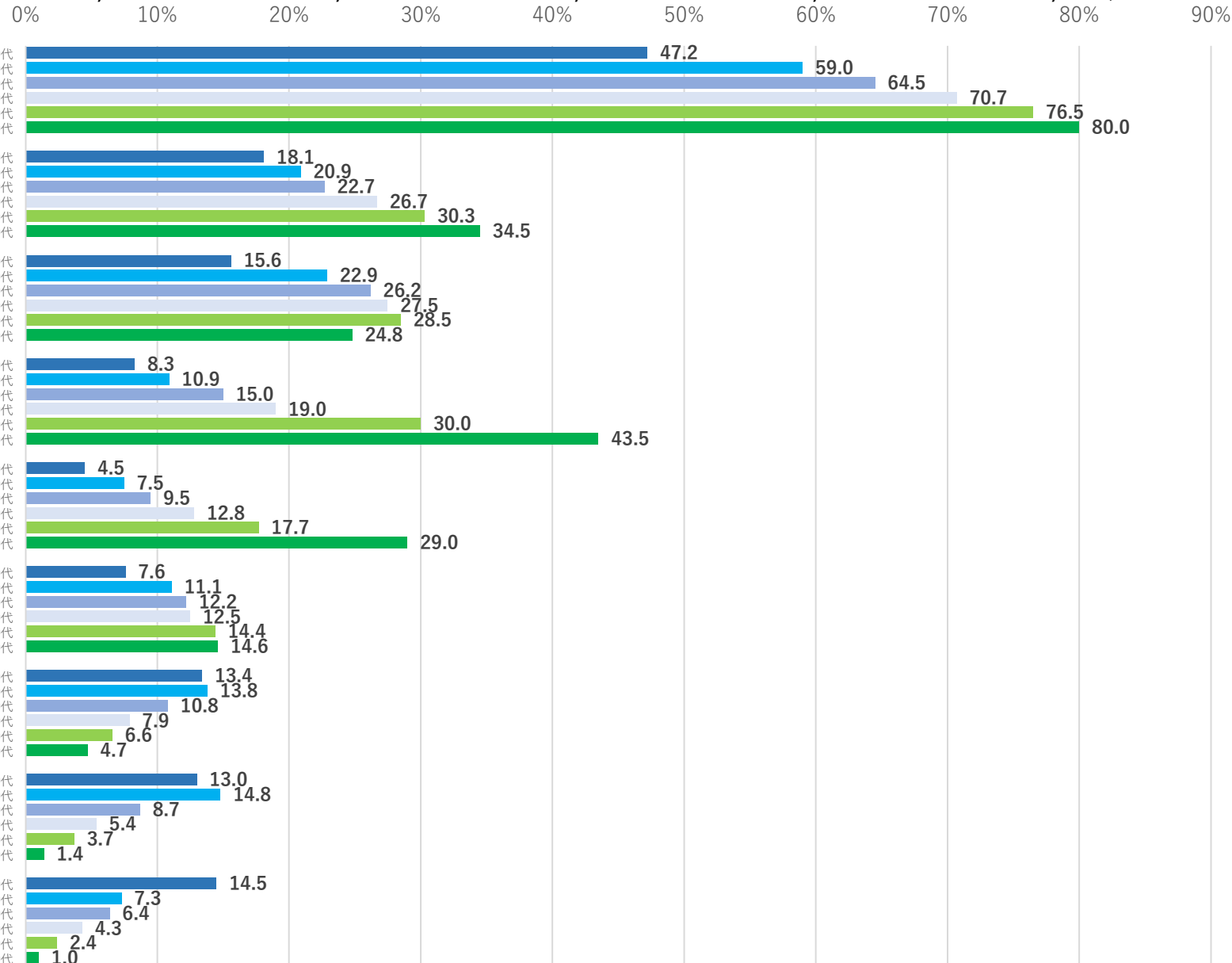


新型コロナやその他の感染症に関しての情報源としては、

- ① 「テレビ（ニュース）」の回答割合が約**65%**と最も高く、「テレビ（ワイドショー、情報番組）」（**25.0%**）、「新聞（紙媒体あるいはインターネット）」（**19.6%**）の既存のマスメディアが上位となっている。
- ② 行政や専門家からの情報については、「インターネットサイト」（**24.3%**）、「区市町村の広報誌」（**12.6%**）、「SNS」（**9.8%**）。

新型コロナやその他の感染症に関して情報を得ようとするとき、どの情報源を利用しますか。 よく利用するものを3つまで選んで下さい。（年代別）

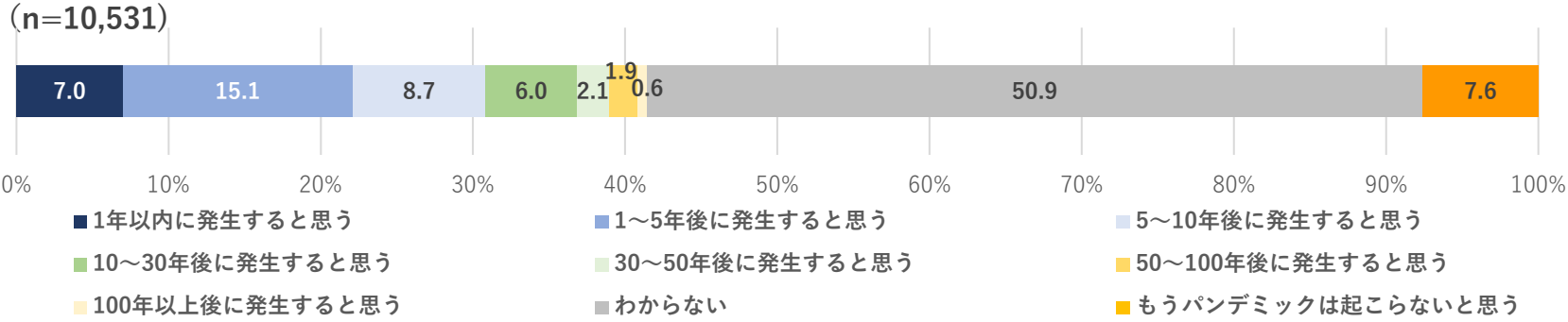
(20代：n=1,651 30代：n=1,886 40代：n=2,168 50代：n=2,084 60代：n=1,388 70代：n=1,354)



◆ 感染症関連の情報源について年代別にみていくと、「テレビ（ニュース）」、「テレビ（ワイドショー、情報番組）」、「新聞」の回答割合は、年代が高くなるほど高い。

◆ 「行政や専門機関・専門家のSNS」や「個人ユーザーのSNS」、「学校や職場」の回答割合は、20代・30代において高く、年代が高くなるほど低い。

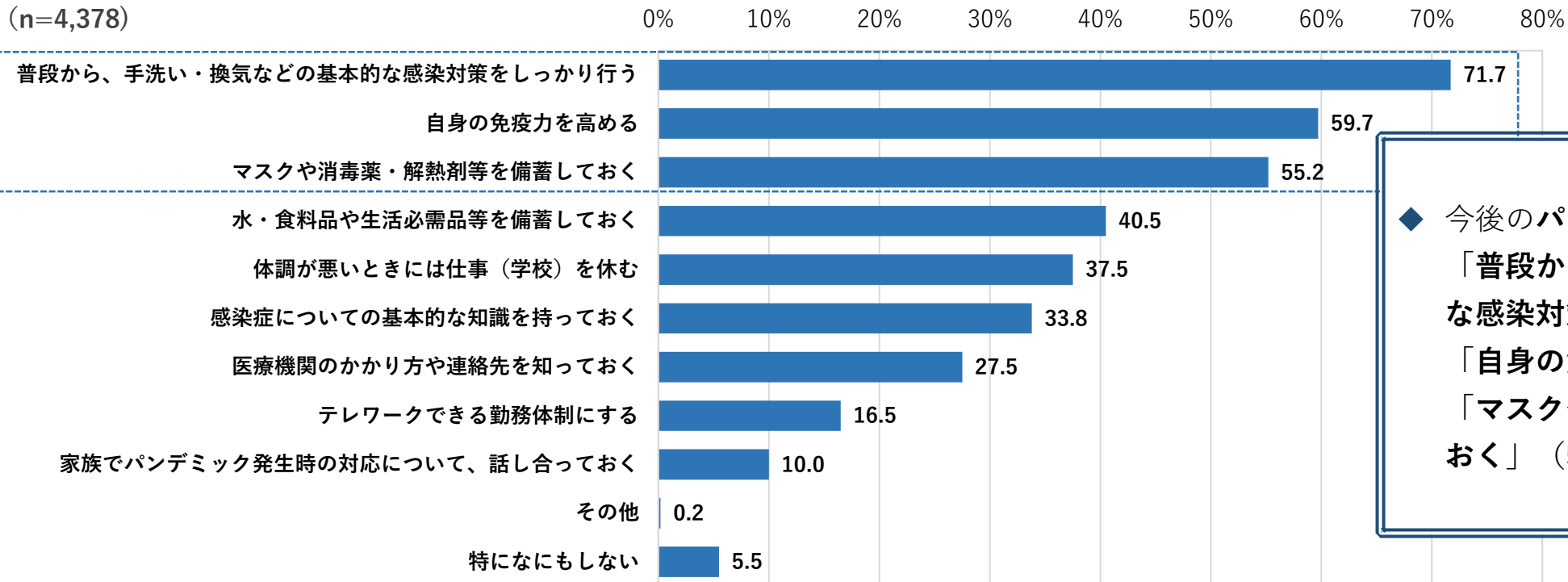
今後も新型コロナのようなパンデミックは発生すると思いますか。 あてはまるものをひとつ選んで下さい。



◆ 今後のパンデミックの発生については、「わからない」の回答割合は約50%、「発生すると思う」の回答割合は約40%。

(前問で「〇〇年後に発生すると思う」と答えた方に)

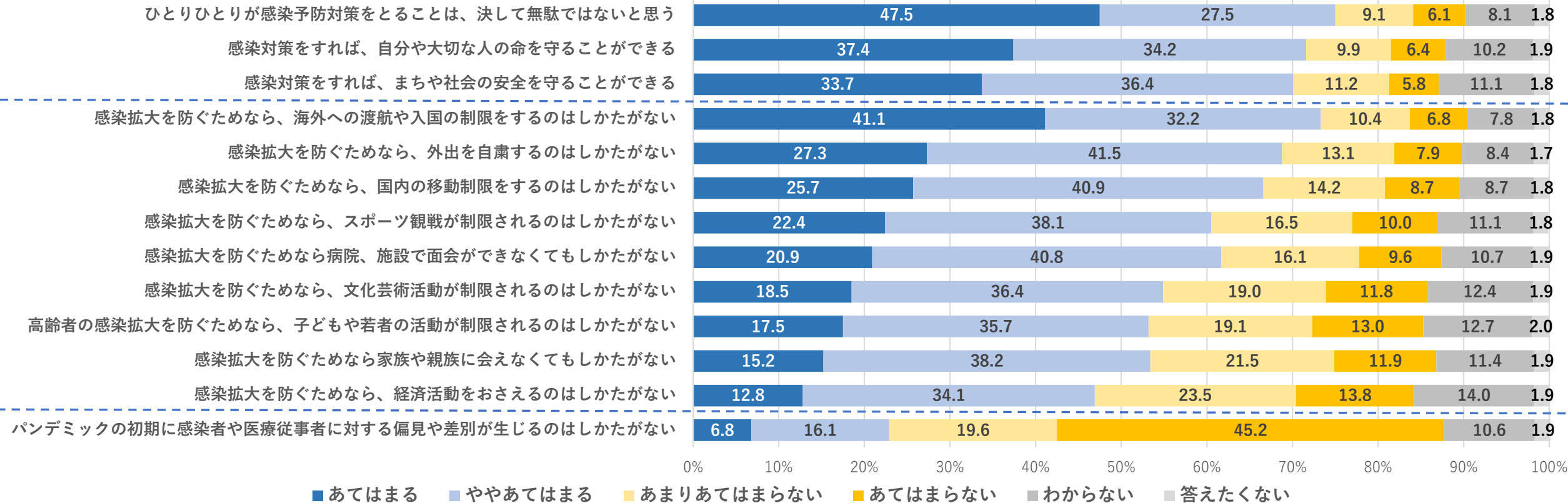
パンデミックに備え、あなたが行っていること、行うつもりのこと何ですか。(複数回答)



◆ 今後のパンデミックへの備えとしては、「普段から、手洗い・換気などの基本的な感染対策をしっかり行う」(71.7%)、「自身の免疫力を高める」(59.7%)、「マスクや消毒薬・解熱剤等を備蓄しておく」(55.2%)。

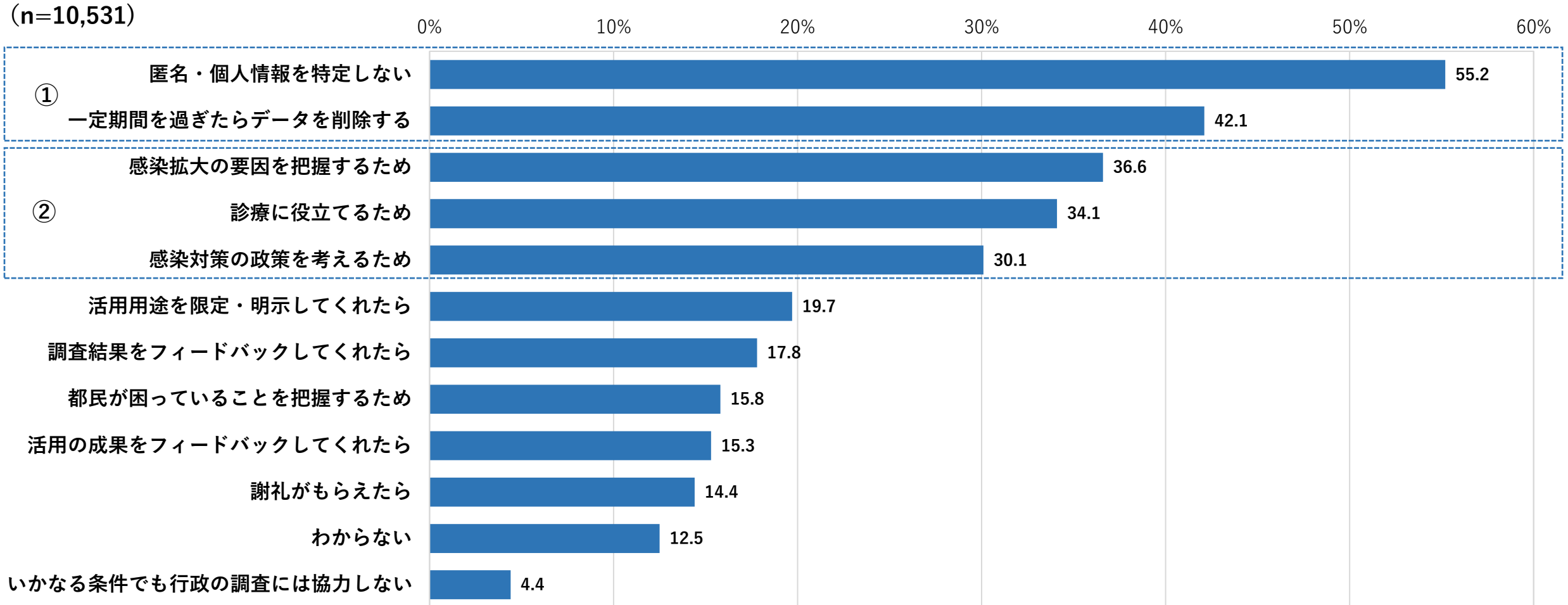
今後、新たなパンデミック（感染症の大流行）が発生した際の対応に関して、あなたの気持ちにあてはまるものをそれぞれひとつずつ選んで下さい。

(n=10,531)



- ◆ 「ひとりひとりが感染予防対策をとることは、決して無駄ではない」 (75.0%) などについて「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合が高く、**自分たちが行う感染対策の意義や有効性を認識している人が多い。**
- ◆ 「感染拡大を防ぐためなら、海外への渡航や入国の制限をするのはしかたがない」 (73.3%)、「感染拡大を防ぐためなら、外出を自粛するのはしかたがない」 (68.8%) など、移動の制限に関する選択肢について、「あてはまる/ややあてはまる」の回答割合が高い。
- ◆ 「感染者や医療従事者に対する偏見や差別が生じるのはしかたがない」に対して「あてはまらない/あまりあてはまらない」 (64.8%) とする意見が多数を占める。

パンデミック発生時には、感染状況の把握や感染対策に役立てるため、行政が個人情報の提供を求めることがあります。どのような条件であれば協力できますか。あてはまるものをすべて選んで下さい。



パンデミック発生時に行政への個人情報提供に協力できる条件としては、

①「匿名・個人情報を特定しない」の回答割合が約55%と最も高く、「一定期間を過ぎたらデータを削除する」(42.1%)と続く。

②「感染拡大の要因を把握するため」(36.6%)、「診療に役立てるため」(34.1%)、「感染対策の政策を考えるため」(30.1%)

といった目的であれば協力できるとの回答割合は3割以上。

今後のパンデミックに関して、あなたが思うことを自由にお書き下さい。（自由記述）

主なキーワード

回答（内容・年代・性別）

※主なものを抜粋

必ず起きる／いつかは起きる／いつ起こってもおかしくない

「コロナだけでなく新たなウイルスは無限に存在すると思うので、必ず何らかのパンデミックは起こると思う。」（70代女性）

「これだけインバウンドで海外から観光客がたくさん訪れている状況で、極端に言えば明日パンデミックが発生してもおかしくない状況に日本はあると思う。」（40代男性） など

起こってほしくない／起こらないことを願う／もうこりこり

「実際にパンデミックを経験してしまったので、今後また同じようなパンデミックは起きてほしくない。」（40代女性）

「起こらないことを願っている。もうこりこりなので。」（50代男性） など

怖い／不安／どうしたらいいかわからない

「いつどうなのが流行るかわからないから怖い。」（30代男性）

「どうしたらいいかわからない。今回のように過剰に神経質にはもうなりたくない。」（40代女性） など

今のうちに備えておく／一人一人が気を付ける／感染対策をしっかり

「パンデミックを想定した備えが必要になると思う。マスクや飲料品の備蓄や行動の確認など、日常に取り入れていきたいと思う。」（30代男性）

「お互いが協力し合って防いでいきたいと思う。罹患しない様、一人一人ができる限りの対策をする。」（70代女性） など

冷静に対処／騒ぎすぎない／マスコミは煽らないでほしい

「過敏にならず冷静に過ごしたい。適切な情報を得られるよう気をつけたい。」（30代女性）

「的確な情報をスピーディーに開示し、憶測や誤情報が流れないように対処すべき。マスコミが恐怖感を煽るのは制限すべき。」（60代男性） など

国や行政はコロナ禍での経験を活かして対処してほしい

「行政や立法機関、医療関係者は起きたときに新型コロナウイルスでの経験を活かして欲しい。国民も経験を活かした行動をし、意識を持つべきだと思う。」（70代男性）

「これまでの経験や知見を活かしながら感染拡大や感染リスクを抑える努力を個人も組織も自治体も政府も行うべきだと思う。」（40代女性） など

初期対応が重要／海外からの入国を制限すべき

「初期対応が重要。感染症対策においては、個人の権利よりも社会を守るためのあらゆる制限もしかたがない。」（60代女性）

「早い段階で緊急ややむを得ない場合以外の入国を禁止する等、人の行き来を止めて欲しい。」（50代女性） など

国や行政、マスコミは正しい情報を発信してほしい

「行政が率先して正しい情報を発信すべき。パソコン・スマホ等で常に情報が取れるようにすべき。特にパンデミックと災害時の情報。」（40代男性）

「正しい情報が早く共有されることで、拡大をある程度防げると思うので、公共機関は国民に忖度せず、必要な時は厳しく指示を出していいと思う。」（50代男性） など

心配してもしかたがない／なるようにしかならない

「起こってしまうものはある程度しかたがないので、自分にできることをするだけ。」（20代男性）

「今後のことを心配してもなるようにしかならない。現在を楽しく過ごし、乗り越し苦労をしないようにしている。」（70代女性） など

- ◆ 今後のパンデミックについて、「怖い/不安」との声がある一方、「今のうちに備えておく/冷静に対処する」といった声もあった。
- ◆ 「コロナ禍での経験を今後活かしてほしい」と考える人が多く、関連するキーワードは「初期対応が重要/正しい情報発信」であった。

<まとめ>

- 新型コロナの流行が始まって以来、都民は**健康面や生活面での様々な影響を受けながら過ごしてきた。**
- 発生から4年が経過した時点において、**新型コロナは身近なものとの都民の意識は大きくは変わっていない。**基本的感染対策も6割以上の人を実施している。
- 将来のパンデミックに対して、都民の多くは、ひとりひとりの**感染対策の意義や有効性を認めている。**具体的な備えを心がけており、パンデミック発生時にも**冷静に対応する姿勢**がある。
- 都は、新型コロナに関して、年代を含めた属性に応じた情報発信に努めてきた。次の感染症の流行に向けても同様に、**都民の属性等も踏まえながら、情報発信や感染症対策をきめ細かに行っていくことが必要。**